

はしがき

本学会の第24回大会は、2012年10月20日（土）、21日（日）の両日、白鷗大学東キャンパスで石村耕治会員を大会幹事として行われた。シンポジウムのテーマは「税制改革と消費税」であった。

シンポジウムの冒頭、醍醐聰氏による「消費税の宿罪」の特別報告があり、その後小山登会員より「消費税法における未経過固定資産税の取り扱いに関する会計的考察」、長島弘会員より「消費税の法の本質から見る財務諸表表示の問題点」、奥谷健会員より「消費税における『対価性』」、梅原英治会員より「財政赤字、デフレーション、消費税」、湖東京至会員より「消費税を法人事業税・付加価値割と合体する提言」、関野満夫会員より「現代ドイツの売上税（付加価値税）の改革をめぐる」の諸報告が行われた。

以上の諸報告を受けて、活発な討論が行われた。

また、シンポジウムとは別に、一般報告として本村大輔会員より「国税徴収法39条における第2次納税義務と詐害行為取消権の関係性」、犬飼久美会員より「退職金課税の起源と変遷」、高橋円香会員より「証券化ビークルの課税実態に関する会計的分析」の諸報告が行われた。

本号は、以上の報告と討論を収録するものである。

次号は「格差是正と税制」の予定である。

2013年4月

日本租税理論学会事務局